九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

マンガ学のすゝめ

日下, みどり
九州大学比較社会文化研究院 : 教授

https://hdl.handle.net/2324/16800

出版情報：西日本新聞, 2002-01-25. 西日本新聞社
バージョン：
権利関係：

大学初の漫画学テキスト誕生！

マンガ学のすゝめ その13

日下みどり

新聞のインタビューでよく聞かれるのが「なぜマンガ研究を始めたのですか」ということ。そういう時は「必要と思ったから」「仲間とぜひやるべきだと話し合って」などと答えることにしている。むろん嘘ではないが、動機はそれだけではない。ことは子供時代にさかのぼる。

子どものころの私は、マンガが大好きだった。特に手塚治虫の大ファンで、文字通り神様のように思っていた。ある日ふと「もし外国に生まれていたら、私は一生手塚マンガを読むことはなかったのだ」と思った時、ものすごい恐怖を感じた。幼い私にとってそれは世界の終わりに等しかった。「外国の子どもはなんて可哀相なんだろう」。私は日本に生まれてよかったとしみじみ思った。

▼▽▽

マンガ学は何故必要か？

ところが小学校高学年のころ「悪書追放運動」が起こり、なんと手塚マンガが槍玉に上がった。岡山ではPTAの母親の手で手塚治虫のマンガが焼かれた。涙が出るほどのショックをうけた私は、それ以来PTAというと「悪の集団」と思い込み、激しく憎むに至る。

もっとも、自分の子が小学校に入ったときは私も委員をやったので、善良なお母さんの集団だということは分かったのだが。だが、それと同じことがまた起こったのである。外国に日本のマンガが入ってゆくにつれ、文化摩擦をおこして非難を受け、排斥されるようになったのだ。

その日本マンガ批判のニュースを読んだ時、思い出したのが、かつての「悪書追放運動」と、焼かれた手塚マンガの思い出だった。あの時、誰かがマンガをきちんと研究し、その価値を評価していれば、あんなことは起こらなかった。幼い私の憤りは、なぜ誰もマンガをかばい、不当な非難に抗議してはくれなかったのかということだった。しかし、その時同様現在もマンガの研究機関はない。事態はいっこう進歩していないのだ。

▽▽▼

常日ごろから同僚とこのようなことを話し合っていた私は、二年前から大学院で、去年から全学共通教育の授業で試験的に「マンガ学」の講義を行った。結果は上々で、かなりの手ごたえを得た私はその結果をもとにテキストを作成した。それが『漫画学入門』（中国書店発行）である。中の挿絵（写真）を描いたのも九大生。大学初の漫画学テキストといえるだろう。

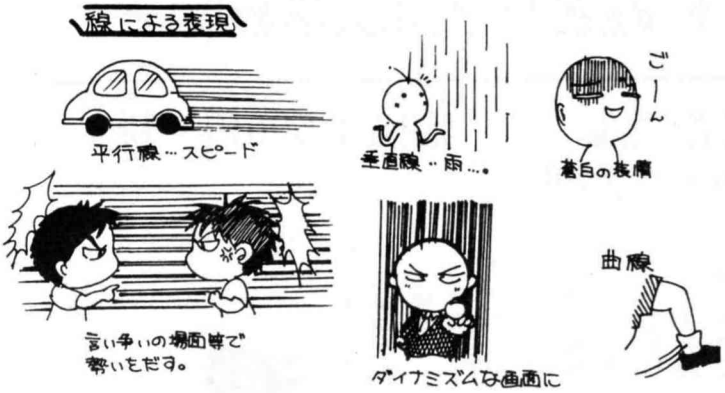
大衆文化はおおむね消え去る運命にあるが、フランスには国立の漫画博物館がある。自分たちの文化を大事にするフランスのやり方は見習うべきだろう。日本も国や公の機関がマンガの文化保護を考えるべきではないだろうか。

文化保護へ記念館が欲しい

高知市ではこの四月七日から「横山隆一記念まんが館」がオープンした。高知の生んだ漫画界の巨匠、あの「フクちゃん」の生みの親である。一方、九州はマンガ家の一大産出地である。松本零士、萩尾望都、長谷川法世、清水玲子、北条司、井上雄彦、星野之宣、吉村明美、業田良家など数えあげればきりがない。何よりあの国民的マンガ「サザエさん」の作者長谷川町子が福岡出身。ももちの海岸を散歩して、サザエ、マスオ、カツオ、ワカメなどの名前を考え出したという。最初の新聞連載は「夕刊フクニチ」で、その後東京に移り朝日新聞に連載を始めたのである。

この地でマンガの記念館や博物館がないのはまことに残念。作家の原稿や資料、初期の作品などを展示すれば、世のファンへの大きな貢献となるだろう。こういった作業を通じ、我々のマンガ文化を保護し研究することは、有意義で必要な作業と思うのだが。＝おわり

（くさか・みどり　九州大学大学院教授）



マンガの文法（「漫画字入門」より）

■『漫画学入門』　漫画を学問として体系的にまとめた珍しい入門書。日下教授が講義のテキストとして製作＝写真、市販もする。『漫画』と『マンガ』の違い」「少女まんが＝日本マンガの大きな特徴」「世界の漫画＝中国編」など10章から成り、練習問題もある。

個人的に漫画を研究する人が多い中、漫画研究のネットワークにつながればと出版。世界に輸出される日本の文化を尊重したいとの思いが込められる。「マンガは文学と同様、深い感動を与えてくれる芸術作品。賛同や批判を含めて幅広い議論のきっかけになれば」（日下教授）。1500円。問い合わせは中国書店＝092（271）3767。

目　次

第一課　「漫画」と「マンガ」の違い

第二課　「マンガ」とは何か？

第三課　マンガの表現（文法）

第四課　アメリカン・コミックスとの違い

第五課　大阪赤本マンガと手塚治虫

第六課　劇画の台頭―光のマンガと闇のマンガ

第七課　少女まんが―日本マンガの大きな特徴

第八課　マンガと日本文学

第九課　子ども文化とマンガ―御伽草子のあった国

第十課　世界の漫画―中国編

付　録：年　表

発展研究用教材

1、参考資料紹介

2、作家と作品紹介

3、マンガで読む日本社会

「練習問題」

期末テスト問題

模範解答例

「異文化理解用教材」

留学生用問題

A，「霧笛」（原作：レイ・ブラッドベリ　萩尾望都）

B，「いちょうの実」（原作：宮沢賢治　大島弓子）

C，「おもかげ行灯」（波津彬子）

D，「名人二代、三遊亭圓左」（古谷三敏）

E，「イグアナの娘」（萩尾望都）

F，「半神」（萩尾望都）